

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会(略称RAC)は、「川の指導者」の養成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成12年9月に設立され、平成17年6月現在、144団体が加入しています。今回は最近の活動をご紹介します。

【子ども向け水辺安全講座用教材DVD】

当協議会では平成14年度から、「子ども水辺安全講座」という講座を展開しています。この講座は、身近な水辺を体験することを通じて、自ら自然環境を大切にしていける力を養成することをねらいとしていますが、水辺での体験活動は危険がつきものなので、当講座では体験活動において自分の命を自ら守る技術を身につけることを主眼としています。この講座で講師役となるのはRACの指導者養成講座を修了した指導者。その指導者が「子どもの水辺安全講座」で、水辺の危険なところやそれへの対処の方法を楽しく指導できるような教材として、今年2月「なまず大先生とおねえさんのワル河童を探せ」という教材ビデオ(DVD)が完成しました。

監修役にはカヌーライフ編集長の藤原尚雄さん。台本はRAC事務局関係者が中心となって作成しました。

構成としては、川の中流域、下流域、上流域の事故が起りやすい場面を出

演者が再現して、専門家がわかりやすくその事故を防ぐ方法を解説していきます。

○中流域

この流域で取り上げた場面は、釣りに行った子どもがテトラポットから落水してあわや溺死してしまうというケース。テトラポットで代表される根固めブロックはコンクリートで出来ていて、ぬれると非常に滑りやすい。且つそのブロックの上ではバランスを崩しやすいため、その様なところに行く際には落水しても呼吸が確保できるようにPFD(パーソナル・フローティング・デバイス：個人用浮力補助

具)を着けるように解説しています。

その他、傾斜護岸や、雑草の生い茂った川岸なども非常に滑りやすく、滑り落ちてしまうと、這い上がるのが困難なために、このようなところへ行く際にもPFDの着用を薦めています。

○下流域

この流域に限りませんが、川底には様々な危険物が堆積しています。釣り場となっている水辺では釣り糸や、釣り針が捨てられています。それらの危険物から足を守るためにはスポーツサンダルという靴底の厚いサンダルを履くことを薦めています。このサンダルはビーチサンダルと違い踵を固定できるので脱げる心配がないという利点もあります。

○上流域

流れの速いところでは、岸近くの岩などの突起物の裏側に一見流れの止まったような水域があります。その様なところは下流から上流に向う逆の渦が発生していて、何れ本流に流れが戻っていきます。一見流れが無いように見えてしまう為に、安心して遊んでいると、本流に引き込まれて危険なだけでなく、本流と流れの逆流しているところの境目には下に引き込む流れも発生しているために、所謂河童に足を引き込まれる水理現象が発生しているといえます。

その様なところでは、PFDやスポーツサンダルを着用するだけでなく、川の指導者と一緒に遊ぶことを薦めています。

○堰堤直下

どこの流域でも堰堤は大体見られますが、堰堤を乗り越えて落ちる流れは川で活動する人には非常にやっかいものです。堰堤を乗り越える流れと落ち込んだ流れが一度川底にぶつかり水面に盛り上がり、上流側に向かう流れが発生しますが、その上流に向かう流れと落ち込む流れとの間には、ペットボトルなどの浮かぶゴミはもちろん、PFDをつけた人、時には大きなゴムボートをも捕らえてしまい、上流にも下流にも抜け出せない状態になってしまいます。またその様な落ち込みの場所では川の水に大量の空気の泡が含まれている為に、PFDをつけていても通常の浮力の半分以下になるので、顔を水面上に出すことが困難です。

このような場所には絶対に近づかないようにする



ことを薦めています。

○その他

小学校の授業でも利用しやすいように、本編約25分で製作しています。

当協議会の会員以外の方にも配布(提供価格2,100円)しています。子どもを川に連れ出すとき等、様々な場面での活用を期待しています。

【第5回川に学ぶ体験活動全国大会in会津】

「川に学ぶ」社会形成に向け、「川に学ぶ」ことの意義を普及することを目的にして開催しています。今年7月30日(土)・31日(日)に福島県会津若松市を中心に開催しました。開催地の阿賀川流域では、「阿賀川・川の達人の会」が周辺の学校等の総合的学習を毎日のように支援している地域。総勢300名の方々が参加。

今回の大会でも前回の福井県での経験を活かし、①体験型の分科会を中心に実施、②分科会は流域の各団体に依頼し、特色のある活動を準備、③交流会で内陸ならではの郷土料理づくり、とことん踊りつ



づける「会津磐梯山」など、文化的な情緒が印象的な大会となりました。冒頭で当協議会の代表から会津若松市の街の壁で見かけた「あいづっこ宣言」が紹介されました。それは「一、人をいたわります／二、ありがとうごめんなさいを言います／三、がまんをします／四、卑怯なふるまいをしません／五、会津を思い年上を敬います／六、夢に向かってがんばります／やってはならぬ やらねばならぬ ならぬことはならぬものです」という宣言です。青少年の非行を防ぐために会津若松の藩校で昔から伝わる教えをまとめたものです。このような教えの息づく地域で全国大会を開催できたことは、「川に学ぶ」社会を普及していく上で非常に有益だったと思います。

○分科会

分科会は下記の6つ。どの分科会も非常に中身が濃く、一つの分科会に絞るのに苦労するほどでした。

① 北会津ホテル及び白山沼イトヨの里訪問と講演会

- ② 木炭庵炭焼き体験と湯川浄化実験水路及び水質調査活動
- ③ 阿賀川ボート体験と化石採掘体験
- ④ 猪苗代湖アサザ栽培による浄化体験活動
- ⑤ 子どもと学ぶ水難救助活動訓練
- ⑥ 総合学習支援活動実習及び川文化等



○交流会

会津地域は内陸なので乾物を巧みに美味しい料理にする方法を編み出してきた地域です。交流会ではその昔から伝わる郷土料理を堪能しました。また、夕暮れ時からは半年も前から刈り取って保管していた葦を束ねて、河川敷ではおなじみの「どんと焼き」も体験することができました。



その他昨年の日野川流域の交流会から恒例となった感のある郷土の盆踊りを参加者一同見よう見まねで体験。1日目だけで河川に伝わる多くの古きよき河川文化を満喫する機会となりました。

<今後へ向けて>

当協議会は今年の7月から自主自立を目指して財団法人河川環境管理財団より事務所を独立させました。関係者の方々には今まで以上にご指導ご協力をお願いします。

《川に学ぶ体験活動協議会》

東京都中央区新川2-10-6 カヤヌマビル703号
TEL. 03-5542-7577 FAX. 03-5542-7578
<http://www.rac.gr.jp/>